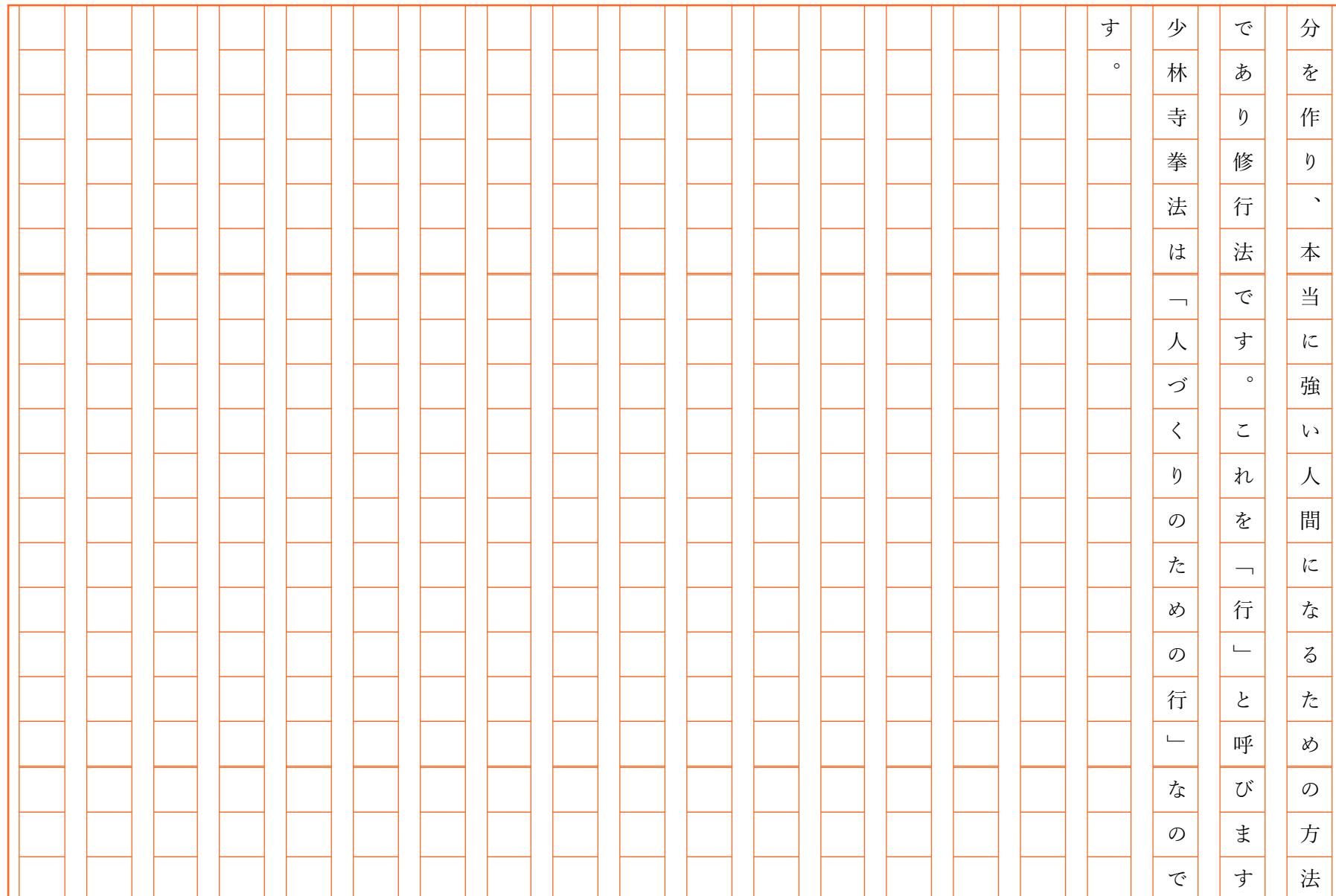


少 林 寺 拳 法 は 、 身 心 共 に 健 全 で 、 頼 れ る 自	身	身	修	一	こ	仲	れ	頃	の	士	強	拳	く	少	少
	に	鍊	行	の	と	間	る	の	よ	全	し	法	、	林	林
	つ	胆	に	目	が	間	こ	修	う	員	た	の	鎮	林	林
	け	』	に	的	が	と	と	練	に	で	り	事	、	寺	寺
	る	精	よ	は	的	共	も	成	試	行	し	や	法	拳	拳
	こ	神	り	本	で	に	あ	果	合	い	し	ど	の	法	法
	と	修	、	当	は	向	り	を	は	ま	て	ん	道	行	つ
	出	養	心	に	あ	上	ま	発	あり	ま	い	な	經	で	て
	来	』	と	強	り	す	る	表	ま	せ	ま	人	典	拳	何
	ま	体	体	い	ま	こ	が	す	せ	せ	ほ	間	を	法	だ
す		を	鍛	人	せ	と	、	ボ	ん	ん	か	唱	え	場	ろ
。		鍛	康	間	ん	な	大	レ	ん	。そ	に	た	技	は	う
。		え	增	に	。	の	切	ツ	。そ	が	も	り	、	技	を
。		え	進	な	少	で	な	の	が	、	作	べき	か	学	ぶ
。		る	こ	る	林	、	の	よ	か	劍	務	か	な	科	だ
。		る	と	こ	寺	勝	は	う	わ	道	を	ど	ど	で	け
。		で	と	と	拳	負	修	に	り	先	必	を	少	少	で
。		で	で	で	法	に	練	考	、	生	ず	を	林	林	な
。		す	す	。	の	勝	す	え	、	が	拳	勉	寺	寺	な
。		。	。	。	第	つ	る	ら	日	え					

20 × 20



°20 × 20

た
い
で
す
。
少
林
寺
拳
法
の
特
徴
の
一
つ
に
「
組
手
主
体
」
が
ら
修
練
を
し
て
技
が
上
達
で
き
る
よ
う
に
頑
張
り
相
手
の
事
を
き
ち
ん
と
考
え
て
き
る
友
達
と
協
力
し
な
れ
も
組
手
主
体
の
良
い
格
の
向
上
ろ
の
意
味
を
意
味
を
忘
れ
し
な
、
手
僕
は
こ
れ
か
ら
も
組
手
主
体
の
良
い
格
の
向
上
ろ
の
意
味
を
意
味
を
忘
れ
し
な
、
協
調
性
を
養
い
、
人
格
の
向
上
ろ
の
意
味
を
意
味
を
忘
れ
し
な
、
ら
、
修
練
性
を
養
い
、
人
格
の
向
上
ろ
の
意
味
を
意
味
を
忘
れ
し
な
、
練
す
る
こ
と
が
最
も
良
い
か
ら
人
づ
く
り
の
行
で
す
か
そ
し
て
、
少
林
寺
拳
法
は
互
い
に
に
は
人
づ
く
り
の
行
で
す
か
の
加
減
な
ど
を
身
に
つ
け
る
に
は
は
、
二
人
一
組
で
修
練
す
る
こ
と
が
原
則
で
場
合
は
必
ず
相
手
が
い
ま
す
。
ど
ん
な
タ
イ
ミ
ン
グ
で
技
を
使
え
ば
よ
い
か
や
、
力
力
、
相
手
に
対
し
て
少
林
寺
拳
法
は
護
身
の
技
術
で
す
が
、
技
を
使
う
少
林
寺
拳
法
の
基
本
な
ど
一
組
で
修
練
す
る
こ
と
が
原
則
で
あ
る
と
い
う
こ
と
で
す
。
り
ま
す
が
、
二
人
一
組
で
修
練
す
る
こ
と
が
原
則
で
あ
り
ま
す
。
少
林
寺
拳
法
の
特
徴
の
一
つ
に
「
組
手
主
体
」
が
少
林
寺
拳
法
の
特
徴
の
一
つ
に
「
組
手
主
体
」
が

20 × 20

来	回	も	突	二、	ま	れ	痛	で	一、	う	注	み	つ					当	當
る	の	、	き	、	す	ま	い	は	、	に	意	や	て	突			身	身	の
適	動	届	き	當	。	ま	部	な	急	な	し	た	て	い	身	と	は	の	五
切	作	い	や	身	。	す	分	く	所	身	て	ら	た	突	い	た	は	の	要
な	で	て	蹴	の	。	。	最	、	の	は	行	に	て	い	身	と	は	の	素
間	相	い	り	間	。	。	初	正	位	相	ま	ら	ら	た	い	は	と	は	五
合	手	な	を	合	。	。	は	確	置	手	す	に	に	に	た	は	と	は	要
い	に	け	正	。	。	。	正	に	体	の	。	う	う	う	り	は	の	の	素
が	有	れ	し	。	。	。	し	当	の	ど	こ	で	で	た	た	は	の	の	素
大	効	ば	く	。	。	。	く	当	と	ど	こ	、	な	す	中	で	の	の	素
切	な	意	急	。	。	。	急	る	言	の	に	正	し	す	拳	。	の	の	素
で	當	味	所	。	。	。	所	こ	わ	に	わ	し	く	る	。	。	の	の	素
す	身	が	に	。	。	。	に	と	れ	当	た	い	、	、	。	。	の	の	素
。	を	あ	当	。	。	。	当	で	る	て	も	当	い	、	。	。	の	の	素
。	行	り	て	。	。	。	て	、	効	た	も	身	い	、	。	。	の	の	素
。	う	ま	た	。	。	。	る	果	る	い	が	き	、	。	。	。	の	の	素
こ	こ	せ	つ	。	。	。	練	習	が	い	で	き	、	。	。	。	の	の	素
と	と	ん	も	。	。	。	習	を	生	わ	る	る	が	、	。	。	の	の	素
が	が	。	り	。	。	。	を	し	ま	け	よ	よ	や	。	。	。	の	の	素
出	出	一	で	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

20 × 20

修	で	す	以	。	分	す	す	五、	い	争	も	少	四、	有	に	三、
練	す	上	。	が	が	。	反	体	速	い	の	少	当	効	よ	急
を	一	の	。	「	実	「	対	に	度	速	の	林	当	な	つ	所
行	つ	五	。	」	手	」	」	力	度	度	で	寺	身	角	て	當
い	ひ	つ	。	で	が	ス	に	が	度	度	で	拳	の	度	は	身
ま	と	が	。	当	実	キ	が	満	当	當	は	法	速	角	効	體
す	つ	当	。	身	」	が	て	虚	身	身	な	度	度	度	く	の
。	が	身	。	を	で	あ	い	实	を	を	く	、	度	角	の	角
	欠	行	。	を	は	る	る	ち	身	行	も	相	度	度	度	度
	け	う	。	う	な	状	状	チ	虚	え	の	手	相	度	度	度
	る	た	。	こ	な	態	態	チ	实	ば	の	戦	手	度	度	度
	こ	た	。	と	く	、	、	テ	」	効	手	う	の	度	度	度
	と	め	。	と	く	、	、	テ	」	果	の	戦	手	度	度	度
	の	に	。	が	大	虚	虚	テ	」	が	手	う	の	度	度	度
	無	必	。	大	切	」	虚	テ	」	出	の	う	の	度	度	度
	い	要	。	切	で	の	虚	テ	」	ま	力	氣	体	度	度	度
	よ	な	。	で	す	時	と	テ	」	ま	持	持	を	度	度	度
	う	要	。	。	。	に	言	テ	」	す	が	力	を	度	度	度
	に	素	。	自	ま	い	言	テ	」	。	な	が	壊	し	度	度